

ペットへの生肉食におけるリスクは利益よりも重要である

翻訳元 : Risks outweigh benefits of raw meat-based diets for pets
<http://now.tufts.edu/news-releases/risks-outweigh-benefits-raw-meat-based-diets-pets>

ペットに生肉を与える事が、とりわけ市販品や手作りレシピが手に入りやすくなった事により、徐々に一般化してきている。しかしこれは賛否が分かれるところである。アメリカ動物病院協会やアメリカ獣医師会が、ペットやペットと接触する機会のある人々両方への食品を介した病気の可能性を引き合いに出して、ペットフードに生肉や加熱が不十分な肉を含める事をやめさせようとしてきたにも関わらず、熱心な人はこれが犬や猫にとってより健康的で自然な食習慣であると主張する。

生肉による食品経由の病気のリスクは事実だが、他の研究でそれらの食餌についてのさらなる心配事を示している。最近公表された **the Journal of American Veterinary Medicine** の論文において、研究者グループが通念から真実を切り離すべく、既存のエビデンスを背景に RMBD(raw meat-based diet)における見識を比較した。

『私たちの文化では、食餌を与える事がしばしば愛の形であるとみなされ、それは私たちのペットへも当てはまる。』と **Lisa Freeman** (論文の筆頭者、有資格の獣医栄養学者、タフツ大学 **the Cumming school of Veterinary Medicine** の教職員) は述べた。ペットの栄養素の決定はしばしば愛情から、誠心誠意をもって成されるが、特定の食餌の利益や安全性について文献が私たちに伝えることを考察することが必要不可欠である。これは生肉を含む食餌に特に重要であり、その結論はリスクが最小限の利益に勝ると既存の研究が示している。

栄養的アンバランス

一般的概念は、RMBD は正しいバランスで犬や猫が必要とする全ての栄養素を供給するというものだ。しかし少なくとも2つの公表文献は RMBD に栄養不足または栄養過多の高いリスクがあることを示している。これはいかなる手作り食と同様に手作りの RMBD において特に当てはまり、市販の RMBD もまたリスクがある。

3つの研究結果から真実であると考えられる RMBD の特異点は、市販のフードと比較して消化率の約 5-14%のささやかな上昇である。しかしながらこのわずかな増加が何らかの健康の利益になるかどうか、現時点では何も証明されていない。

別の意見は猫や犬に生肉を与える事は彼らの飼いならされていない祖先が野生下で食べていたものの模倣であるということだ。しかしながら、最近の研究では狼と犬の消化におけるいくつかの変化は犬の家畜化における早い段階での極めて重要なステップであると示している。野生の狼は大抵数年しか生きず、長く健康に生きる事を望むペットには最適でない食餌を食べている、と著者は記す。

RMBD と食餌の安全性への懸念

生肉は食用に供するために販売されている、手作り食の一部としてまたは市販品として売られている RMBD であるなしに関わらず、サルモネラ、大腸菌、クロストリジウムを含む様々な病原体に特に汚染され得る。市販のペットフードで他のタイプの物はまたサルモネラや他の細菌の汚染の影響を受けやすいが、市販または手作りの生肉食よりははるかに少ない割合で発生することが調査により示されている。

例えば、ある調査では、48%に至るテストした市販の RMBD はサルモネラに汚染されており、一方で手作り RMBD の汚染率はわからな

いが、別の調査では生の鶏肉を用いた手作り食の 10 中 8 食が細菌に汚染されていたとわかった。最近発表された調査（JAVMA の論文にレビューされなかったもの）では RMBD サンプルの 16% はリステリアに汚染されていたとわかった。RMBD の支持者が汚染された食べ物から動物は病気にならないだろうと主張する一方で、それらの病原体に起因する動物の病気や死までもを文書で記録しているいくつかの学術論文がある。レシピに骨が含まれていると（生、加熱済みに関わらず）、歯が折れたり、消化管の閉塞や選考のような他の健康上のリスクを起し得る。

『私たちはペットの飼い主に彼らの獣医師またはアメリカの大学に認可された獣医栄養士とペットの栄養について話す事、そしてペットの食餌に生肉を取り入れようとする誰にも学術論文を見直すようアドバイスする。』 Dr.Freeman は述べた。